（大正九年七月一日第三種郵便物認可）　大正九年十月三十一日　京城日日新聞　日曜日　第百十七號　（一）

祝天長節

京城日日新聞

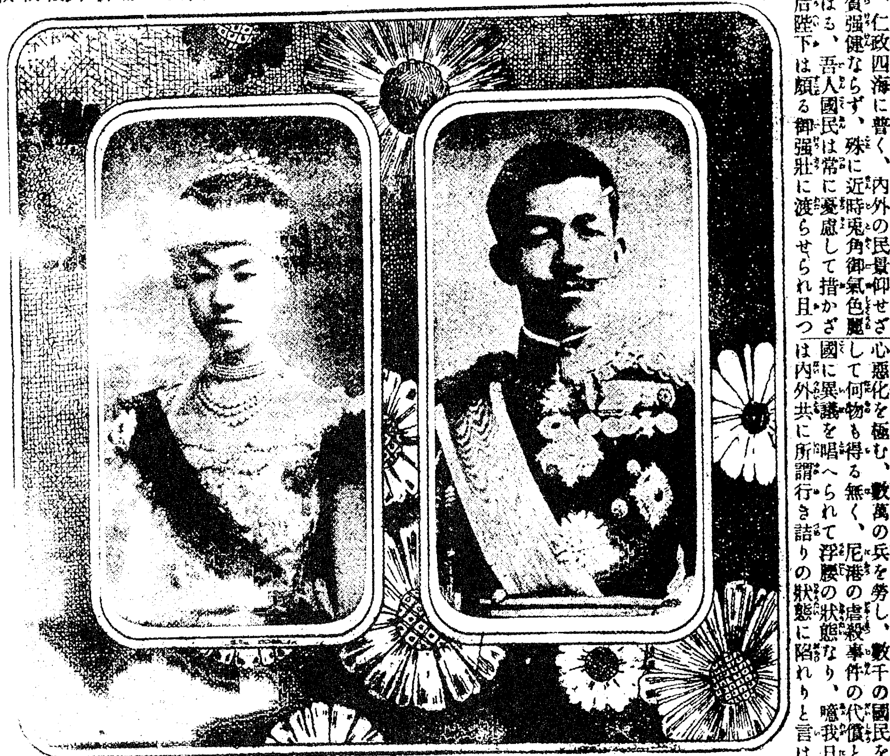
社説

天長節祝日に臨みて

本日は我　天皇陛下四十二の天長祝日なり、吾人七千萬民は齋戒沐浴して　天壤の無窮を祈り奉り、杯を擧げて國運の興隆を祝せざるを得ず。

我　陛下は眞に允文允武明治大帝の遺業を繼ぎて大正の新謨を啓き、天資聖德高く、仁政四海に普く、内外の民畏仰せざる無し、而も由來御體質强健ならず、殊に近時兎角御氣色麗はしからざる消息を承はる、吾人國民は常に憂慮して措かざる所なり、而も我皇后陛下は頗る御强壯に渡らせられ且つ聰明にして坤德の響れ高し　亦我皇太子殿下には既に御成年に達せられ、體質剛健にして聰明に渡らせられ學を勵み帝德を修らせられ聲譽内外に高く、公式の際陛下の御代理を勤めらるゝ場合、御動作態度寛平として雄々しく天下に君臨するに足るの器度既に備はれり、吾人國民は之を拜して常に意を强ふして止まざる所なり、加之他の三王子孰れも御强健にして亦聰明、學德を勵み玉ふて餘念無し、此を以て、陛下は襟震を安んじて靜養し玉ふを得べく、我々國民亦大に意を安んじて皇運の隆昌を祝し、國盛の振興を企圖するを得る也

顧みて我國狀如何と考ふるに、世界大戰の影響を受けて一時經濟界の大膨脹を來し、數年來富力俄に增し國勢俄に發展せり、然るに戰爭の終熄するや昨年來戰役の影響を受け、俄に輸出貿易激減を來し、一時勃興せし諸事業諸工場は中止又は閉鎖を餘儀無くせしめられ金融は俄に引締られ、不景氣風は突風の如く襲來せり、然るに一時暴騰を來せし物價は依然として低下せず、原料は低下せるも、小賣は容易に低下せず、事業難と生活難の聲は漸く高まり經濟界の大變調を來せり、宛も順風に帆を揚げて快走せし船が、忽ち逆風に襲はれ雨に遮ぎられて難航を極むるに似たり經濟界の前途は尚ほ暗澹を極む、遠からず風熄み雨晴るゝも、到底往日の快天順風は望むべからず、然して民心は戰時中の好景氣に浮かされて、輕佻奢侈を極め、戰役の不景氣に襲はるゝも奢侈の餘勢は容易に衰へず、勤儉の美風地を拂ひ、怠惰にして僥倖を事とし、少しく働いて多くを食らんとする惡氣風一世を蔽ふ、サボタージと云ふ語は一時流行語となり、人は競うて怠業し、以て得意とすると云ふ悪風潮を呈し、デモクラシーと云ふ語は一世を風靡して無差別的に階級打破を唱へ、貧富、長幼、賢愚、善惡、正邪の差別を無視し、無教育者、勞働者、下層民等、一時に頭擡跋扈して社會の秩序を破壞し以て快を叫ばんとする惡氣風滔々として低止する所を知らざらんとす、甚しきに至りては共産主義、過激主義の異端邪説新説として青年に歡迎せられ、我社會と我國家の基礎を動搖せしめ、以て快事とする風あり、斯の如く世態人心日に惡化して頗る憂慮に堪へざるものあり、然して原内閣は多數黨たる政友會を恃みて天下を我物顔し、專橫邪恣、至らざる無し、更に帝國の世界に於ける位置に想到せんか一層寒心に堪へざるものあり、戰後の世界に覇を稱する米國は橫暴を極め、我を敵視して事每に我國勢の發展を呪ひ、米國内に於て我日本人を排斥するのみならず、自國と關係無き東洋方面に於ても日本の活動と發展を妨げて其及ばざるを憾むと云ふ態度なり、支那も米國の尻馬に乘りて日本に對し暴慢なる態度を取り、事每に日本と爭はんとし、事每に日本を排斥せんとする不遜なる態度を持せり、露國との關係も西伯利問題と過激思想の爲に我と善からず、日英間は同盟の舊誼に渝ること無きも、往年の誼無く、日英同盟の將來を危ぶまれつゝあり、然して領土朝鮮に於ては獨立運動熱旺盛にして絕えず不逞鮮人跋扈し、排日の氣風勃興し、民心惡化を極む、數萬の兵を勞し、數千の國民を犧牲にせる西伯利に於てすら代償として何物も得る無く、尼港の虐殺事件の代償として占領したる北樺太すら米國と露國に異議を唱へられ浮腰の狀態なり、噫我日本内外の現狀形勢は斯の如し、日本は内外共に所謂行き詰りの狀態に陷れりと言はざるを得ず、原内閣と政友會員以外の國民にして苟も常識を失せざる者は憂慮措く能はざる所なるべし而も當事は吾人の屑しとせざる所なり失望落膽は興國民の態度にあらず、吾人は暗澹たる間に光明を認めて進まざるべからず、行き詰りの間に立ちて勇往邁進局面の展開を圖らざるべからず、即ち内は所謂新しがりの異端邪説の徒を掃蕩して健全なる思想を喚起涵養し、國民の氣風を改善し、元氣を作振し、氣字を剛健雄大にし、以て健全剛健なる社會と國家を築き、益々國運の隆昌を期せざるべからず、外は正義の命ずる所に從ひ、勇氣を鼓して開大進取の國是を遂行すべく努力奮戰せざるべからず、即ち支那何するものぞ、露國何するものぞ、米國何するものぞと云ふの氣魄無かるべからず、殊に半亡國の支那人や、國家的に解體せる露國民や、領土内に在る朝鮮人迄に輕んぜらるゝに至りては、日本帝國の威信全く地に落ちたりと云ふべし是れ要するに日本人の文弱に陷り剛健雄大の氣象を缺ぎ、原内閣の小康を貪り姑息なる外交政策の致す所なり、夫れ米國が我國に對して尊橫無禮なる態度を持して憚らざるも、畢竟彼れが强大なる海軍を恃みての事なり、我國民にして眞に米國の專橫と米國の排日的行動を悪まば、須らく臥薪嘗膽、勤儉努力、國力の充實と海軍の擴張を圖り且つ剛健なる精神を涵養し剛健雄大なる國民を造るにあり、滔々たる新しがりの文弱の風と、小惠にして姑息、怠惰、淫靡、奢侈を事とする氣風今日の如くならんか、我帝國は何時迄も米國の橫暴に屈せざるべからず、米國の橫暴を膺懲する實力と準備と勇氣無からんか、露人にも、支那人にも、朝鮮人にも輕侮さるゝことを覺悟せざるべからず、斯の如きは日本民族の忍ぶ能はざる所ならん、我國朝野の反省發奮自疆を策すべきは實に今の秋なり、天長節に臨み一辭を草して我國上下に警告す。



觀菊有作　安永 春雨

[illegible]

觀菊有作　釜島 紫峯

[illegible]

同題　河島 五山

[illegible]

内外電報

協黙調發見に努む

炭坑夫代表者と政府と會見の結果左の如く發見の相違ある點を審議せり政府は滿足なる解決を得ば二志の増額をなすに同意するものなり双方は斯くして其要求の數部分を取消したり（倫敦來電）

炭坑問題解決内容

協議に依れば英國政府と炭坑夫代表者との間に行はれ居りたる協議は二十八日遂に妥協點を見出し玆に圓滿なる解決を告ぐるに至れり而して首相ロイドジョージ氏は二十八日夜下院にて妥協案を發表する筈なるが其條件中には二志の賃金増加と繼續的賃金局の設立及び石炭産額の増減に比例して賃金を加減する爲にスライチングスケルの法に依る件を含むとのことなり（倫敦來電）

炭坑罷業の難關

新たに起れる難關は炭坑夫同盟罷業解決を遲延せしめ居れるが内閣は再び二十八日早朝閣議を催ふすべし這は右難關の重大なることを表示するものなり炭坑夫側にては最後の難關に至りて新要求を提出したればなり（倫敦來電）

獨財産没取破棄

佛國首相は英國に在る獨逸人の重要財産没收の件を破毀すべき旨の通告を受けたり該通告は官邊に多大の警告を與へたり佛國は斯かる行動に出でたることの頗る重大なることを指摘しつゝあり何となれば獨逸が若し佛國に對し英國同樣財産没收の權能抛棄を要求せむことを恐るゝを以てなり（巴里來電）

佛紙英國を攻撃す

巴里諸新聞紙は英國政府が獨逸人個人に對する報復を否認して獨逸が平和條約を履行せざる時と雖も其財産を沒收せずと宣言したるに對し巴里の諸新聞は已に一齊に英國と筆を揃へて攻撃し居れり（倫敦來電）

米人利權獲得確實

國務省はフォンベーゲンに在るベンベー氏米人かは西伯利東北地方にて廣大なる權利を獲得せりといふ報道を確認せり（紐育來電）

西伯利々權問題

と米國務省の態度

國務省は米國人が西伯利にて重要なる權利を獲得せりとの報に關し聲明して曰く米國政府は勞農政府を承認せざる限り同州當事者との契約は全然效力を有せず國務省にては過激派より獲得せる權利に關して一千九百十九年四月二十六日聲明したると同樣の態度を執るべしと指摘し昨年七月六日に發表したると同樣の言を反覆せり（華盛頓來電）

比島獨立の宣傳費

比律賓議會は獨立宣傳費として毎年十萬ペソ宛を支出することを可決せり（華盛頓來電）

結局容認疑なし

朝鮮總督府豫算と補給金

總督府來年度豫算は頗る膨大なるもの如く政府は二千萬圓の補給金を要求する所あれと總督府要求額は僅に一千萬圓にして目下原首相高橋藏相と總督府の間に熱議中に係り内閣側は決定を見るに至らざるも結局内閣側に之を容認するは左迄困難ならざるべく圓滿解決を見るに至るべしと（東京來電）

反過激派軍困憊

莫斯科當局に知れたる電報に曰く反過激派軍司令官アンニンコフ氏は過激派軍の壓迫を被りて本年初夏約二千の兵士と共に遂に支那の新疆西省内に逃入し僅かに武器を支那に賣却しトルトロウルミラに在りしが本月十八日兵六百名を率ゐてウルツブを發し東方に向ひ大沙漠の横斷の途に上れり（東京來電）

宣傳列車知多着

勞農政府の宣傳列車は知多市に到着せり（華盛頓來電）

勞働次官彈劾

米國移民局勞働次官ルイツチフリーランドトシユー氏が勞働問題追放を中止したりとの理由にて同氏の罷免を大統領ウヰルソン氏に要求したり（華盛頓來電）

定例閣議

二十九日の定例閣議は午前十時より内閣會議室に於て原首相各大臣（元田、加藤、田中、野田の各相缺席）出席内田外相より外交狀況の報告ありたる後内外要政務に就き協議し正午散會したり（東京特電）

拓殖調査會

拓殖調査會は寺内内閣の時設置されたが委員長の決議の結果延引し來りしが近來朝鮮問題を始め植民地に關し問題多く朝野識者間に拓殖調査會再開の議論あり政府は之に鑑み目下正副委員長委員の銓衡中にて決定次第發表し開會すべしと（東京來電）

軍行賞發表期

陸海軍人軍屬及各關係文官の行賞は來る十一月一日附を以て順次發表さるべきが前浦鹽派遣軍司令官大谷將軍並に現軍司令官大井將軍及出征部隊參謀長等の行賞は最後に發表する方針にて多分明年四月頃なるべし

原首相參内

原首相は二十九日午前十時二十分參内御座所に於て天皇陛下に拜謁仰付けられ内外重要政務に就き委細の上奏ありて伏奏の上御下問に奉答する所あり次で駐獨大使親任式に出席したり（東京來電）

總督首相會談

齋藤總督は二十九日午前十時五十分内閣に原首相を訪ひ會談せり（東京來電）

元田鐵相病狀

目下山陽ホテルに滯在病氣療養中なる元田鐵相其後の容態は...

關門鮮人取締

近頃不逞鮮人の...

鮮鐵九月荷動概況

在布鮮人間の紛擾

危險思想鼓吹と義勇兵等の動搖

李承晩等

鮮内化學工業現況（二）

局長室の凝議

營林廠大擴張

京取建株變更

果實品評會

東京期米特電

大阪期米特電

仁川期米特電